



「換気扇の下で吸えば大丈夫？」 いいえ!タバコの煙は虐待行為です!

ご家族の中でタバコを吸う習慣をお持ちの方はいらっしゃいませんか? 受動喫煙による歯肉へのメラニン色素の沈着と思われる。本人が喫煙してなくても、他人の吸っているタバコの煙(副流煙)を吸い込むことで健康被害を受けることを「受動喫煙」といいます。タバコを吸っている本人が吸っている主流煙よりも副流煙のほうが毒性が50倍以上強いことが判明しています。乳幼児や未成年者では、受動喫煙の影響は極めて大きく、口腔内にもその反応が見られます。親が喫煙者だと、受動喫煙で80%近いお子さんの歯肉にメラニン色素の沈着を認めます。問題が大きくなる前に信頼できるかかりつけ歯科医に気軽に相談することをおすすめいたします。適切に禁煙外来などの医療機関と連携して対応してくれることでしょうか。



タバコを吸わない両親を持つ子供の歯肉



受動喫煙で歯肉が黒くなった子供

A

Q



山口芳照 歯科医師
Yoshiteru Yamaguchi

浜松市中区佐藤町「やまぐち歯科矯正歯科医院」院長。インプラント、審美歯科、床矯正、ホワイトニングを得意とする。「自分がクライアント(患者)だったなら“受けたい”と思う歯科医療を提供する」が信条。

6才のこどもの歯肉が黒ずんでいます。歯科を受診したほうがいいでしょうか?

家族の喫煙と子供の口腔

タバコは未来の子どもの健康もおびやかします!

タバコの煙には、化学物質4000種・有害物質200種・発癌物質37種が含まれます

取材/やまぐち歯科矯正歯科医院 ☎053-461-2906

妊娠中の喫煙や受動喫煙は胎児にどのような影響を及ぼすのでしょうか?
母体の血流が悪くなるため、成長発育が悪化し、生後も睡眠時無呼吸、乳幼児突然死症候群(SIDS)、脳室内出血、斜視、呼吸器疾患などを発症する率が高いというデータが出ています。またニコチンなど化学物質が脳に悪影響を与えるため、身長伸びが悪く、知能指数も低くなり、キレやすい子供、抑制のできない常習犯罪者になる率が高いとも言われます。生まれた後も同様で子供がタバコの煙にさらされるとSIDSや気管支喘息、中耳炎などにかかりやすくなったり、身体や知能の発達が悪くなる事が知られています。子供たちの将来のことを考えれば、禁煙は親になる者としての当然の義務です。未来を担う子供たちが、タバコによる健康被害を受けることなく育って行ける環境を作ることが、すべての大人の責任だと思えます。



ヘビースモーカーの両親のもとで育てられ、成人した女性。歯肉は黒く変色し、歯並びの不正も対応してもらえませんでした。



ヘビースモーカーのお口の中。同じ部屋にいただけで悪臭を感じることができるとはむし歯や歯周病が進行しています。

喫煙者の口の中の特徴

- ①虫歯や歯周病が進行している
- ②歯肉へのタール(発がん物質)の付着
- ③ニコチンによる血管収縮作用により歯肉が暗紫色
- ④メラニン色素の沈着
- ⑤歯肉がんの前段階である「白斑」が見られることがある。

タバコの煙による大きな健康被害

タバコは喫煙者本人だけでなく、家族、特に子供や胎児には様々な健康被害を受けるといことがわかってきました。また、親が自然に喫煙している姿を日常的に見せることで、喫煙に対する抵抗感が薄くなり、早期に喫煙を開始してしまおう子さんも多く見られます。では実際どのような被害があるのでしょうか。山口先生にお聞きしました。



やまぐち先生が答えます!

歯に関する悩み・質問に
ママミーヤ誌上でお答えします!

※質問すべてに回答するものではありませんのでご了承ください。尚、これより得た個人情報については他に開示しないものとします。質問はメールにて受け付け!

■アドレス/dental@c-shopper.co.jpまで